

2025.3.26

木村 純

来年度の社会教育委員の会議の課題についての提案

1. 来年度は「高齢者の現状と社会教育の課題」をテーマに活動しませんか

今年度は石狩市教育プランへの提言づくりを行いました。その中で、市民の方たちに委員の皆さんにヒアリングを分担してもらいました。ヒアリングの対象となってくださった方のうち、多くは高齢者の方たちでしたが、提言そのものには、高齢者の問題について十分にふれられませんでした。社会福祉協議会へのヒアリングをして、社協に紹介してもらって高齢者の居場所や老人クラブなどの関係者にヒアリングと考えていたのですが実現できませんでした。数年前も高齢者の問題を取り上げたいとはじめてのですが、コロナ禍のなかで、ヒアリングのために高齢者にお会いすることも難しく、結局、教育委員会の皆さんに手伝ってもらって公民館を利用するサークルがどんな問題を抱えたか、困難を乗り越えてどのように活動を継続したかなどについて調査を行い、報告のレポートも作りました（それが今日お配りした 2021 年 7 月のレポートです）。やり残してきたことを来年度こそ取り組みたいと思います。

2. 提言で明らかになった石狩市の高齢者と社会教育の現状

提言では、次のことが明らかになったと思います。第1に、元気で学習意欲も高く、地域の課題に積極的に取り組みたいと考えている高齢者の方たちがたくさんおられるということ。子ども食堂や高齢者を含む地域の人びとの居場所づくりなどに関心が高く、地学協働などの取り組みにもボランティアをしたいと考えている高齢者が少なくないことがわかりました。第2に、一方で、社会教育の事業の受講者や参加者の多くが高齢者に偏り、様々な市民の活動のリーダーの高齢化がすすみ、世代交代が遅れており、多くの団体やサークルがリーダーの後継者に悩んだり、メンバーの確保に悩んでいることもわかりました。第3に、社会教育の事業に参加するためには、その会場へのアクセスの問題がありますが、だんだん車の運転から離れ、そこに行くのが困難になるのではないかと、という不安を多くの高齢者の方を感じていることもわかりました。これは高齢者だけでなく、石狩市の公共的な交通手段や公共施設の配置の問題でもあります。

これらのことが提言づくりでも明らかになりましたが、もっと「高齢者が安心して暮らせる地域」はどうしたら作ることができるか、そもそも人生 100 年時代といわれるなかで「高齢者の幸福」とはどういうことなのかについて、市民の皆さんに聴いてみる必要があります。そのような対話を重ねることで、若者が社会教育になかなか参加しないという問題のこてえがみつかるかもしれません。

社会福祉協議会や老人クラブ、高齢者の居場所づくりのリーダーや関係者の皆さんにヒアリングをするとともにもっと多くの高齢者と一緒にヒアリングをして対話をしてみたいと思います。

3. これらについてヒアリングを重ね、分析をするうえで「キーワード」となることについて「いくつか」

- ① 人生 100 年時代
- ② ウェルビーイング
- ③ 「読むこと」「読書会」
- ④ 「無知学」

4. 次回の社会教育委員の会議

私は、2025 年度の社会教育委員の会議では、以上のように考えています。もちろん皆さんからもっとこんなことについてみんなで考えてみたいというお考えもあると思います。それらも含めて次回、皆さんと議論して、今年度のテーマを決めたいと思います。